
リンガーハットの国産野菜、 GAP取得推進の取り組み

国産野菜100%から、JGAP認証農産物使用に向け、日本の農業を支援！

目次

- リンガーハットグループの紹介と近況
- GAP取得推進の経緯
- GAP取得産地の状況
- 今後の目標

リンガーハットの店舗展開



国内**562**店舗
海外**8**店舗



Ringer Hut



キッチンカー リンガー号 国内**3**台



能登半島地震
炊き出し支援の実施
11日間 3,548食提供



国内**1**店舗



国内**83**店舗
海外**2**店舗



※店舗数: 2024年3月1日時点

自社3工場による生産体制

全国3か所にある自社工場で加工を行い、毎日店舗への配送を行い新鮮な食材を届けています。

【京都工場】

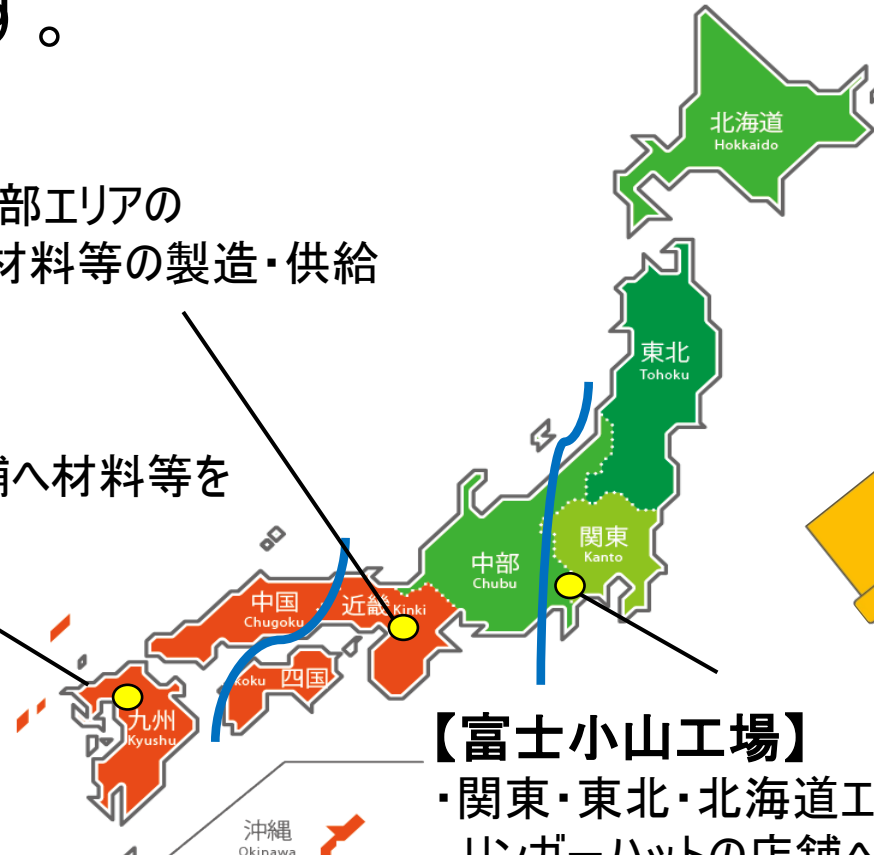
・関西・四国・中部エリアの
リンガーハットへ材料等の製造・供給

【佐賀工場】

・九州・沖縄・中国エリアの
リンガーハット、濱かつ店舗へ材料等を
製造・供給



もやし製造工場 JGAP 2024年10月取得



【富士小山工場】

・関東・東北・北海道エリアの
リンガーハットの店舗へ材料等を製造・供給



国産野菜の使用量

リンガーハットで使用している野菜

2023年度実績

計 17,330トン



野菜の種類	年間使用量 (トン)	野菜の種類	年間使用量 (トン)
キャベツ	7,760	人参	560
玉ネギ	1,340	きくらげ	250
もやし	6,170	コーン	250
インゲン	300	その他(※1)	700

(※1) ケール・なす・かぼちゃ・ニラ・ネギ・小松菜・パプリカ・水菜・ししとう他、

GAP取得推進の経緯

国産野菜へのこだわり

名誉会長 米濱和英（2006年～2008年JF会長を務める）

「日本の農産物は本当に美味しい」「お客様に野菜を安心して食べていただきたい」

「日本の農家を応援したい」

⇒ 【全量国産野菜】へ 変更決定

年月	国産化の歴史
2009年10月	使用する野菜7種類(※1)全てを国産へ
2010年	麺やぎょうざに使用する小麦粉を国産へ
2013年	ぎょうざの主原料を国産へ
2015年	2009年に諦めた「きくらげ」を国産へ

※1)キャベツ・もやし・人参・玉ねぎ・コーン・青ねぎ・オランダさやえんどう



JF産地交流会

GAP取り組み経緯と現状把握

2009年の国産野菜使用から8年経過し、
更に安全・安心でお客様に喜んでいただける『良い野菜』を使用したい。

⇒GAPで求める基準や取り組みが一致

まずはちゃんぽんに欠かせない野菜である『キャベツ』から取り組む！

■現状把握

- ・2017年時点でキャベツ契約産地 72産地中7産地が取得済み(9.7%)
- ・仕入担当者のGAP知識が無い。

担当者がGAPを知らないのに農家さんと話も出来ない！ ⇒まずは知識習得

GAP知識の習得

まずは…

購買担当者のJGAP指導員研修を受け、基礎内容や産地へ伝えるための知識を習得する。

⇒2017年当時の購買担当3名がJGAP指導員資格取得

次に…

唐突ですが皆さん、『GAP』をご存知でしょうか？
 そう、皆さんもよくご存知の洋服のブランド・・・では無く、
 GAP（ギャップ）は、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる
 認証です。

主に以下の認証の種類があります。

GAPの主な種類			
NO	種類	運営主体	説明
1	グローバルGAP	ドイツに本部を置く伊藤忠商事・ グループプラス	欧州の流通小売の大手企業が主導で策定した 取引条件としてのGAP ・第三者による認証を実施
2	アジアGAP	(一財)日本GAP協会	・GFSI(世界食品安全イニシアチブ)承認の国際規格 ・アジア共通のGAPのプラットフォームとして位置づけ
3	JGAP	(一財)日本GAP協会	・農業者、JA、大手小売業等が参加して開発 ・指導員を育成する仕組みをもつ ・第三者による認証を実施
4	各都道府県のGAP	各都道府県	・各都道府県が独自に定めたGAP ・一部の都道府県で第三者による認証を実施

ちなみにGAP（ギャップ）とは、良好な農業生産工程管理
G (Good)・・・良い
A (Agricultural)・・・農業の
P (Practice)・・・やり方
 のことを言い、農業をするうえで、各工程の点検や記録をしっかりと強し
 て管理することで、「安全な農作物を作る」ことを目的としています。

社内への知識共有
 として全従業員が
 見る事の出来る
 社内ブログでも紹介

会社として
 取り組みを周知

GAP取得産地の取り組みと状況

GAP未取得産地への説明会開催



2017年に1年かけ未取得のキャベツ生産農家さんへ
GAP認証の重要性や必要性を説明する説明会を開催

PC使えない

書類作成無理

お金がかかる

説明会当初は強い反発があったものの、時には同じ産地に何度も伺い、取らせるのではなく、一緒に取り組む姿勢で臨み、生産者の方に理解を得る事が出来た。

キャベツGAP取得状況(取得意思)の確認

□△○青果類

団体・産地・生産者	GAP状況	品種	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
① JAOO (群馬県〇〇村)	JGAP2021年 2月までに取得で 取り組み中	主要品種①				早若夏	日の出	秋徳	秋徳
		主要品種②				早若夏	日の出	秋徳	秋徳
		主要品種③				早若夏	日の出	秋徳	秋徳
		主要品種④							
		予定収量(KG)				60,000kg	65,000kg	70,000kg	60,000kg
② 熊本〇〇会 (熊本県〇〇村)	JGAP2020年5月 申請予定	主要品種①					おきな	おきな	おきな
		主要品種②					日の出	日の出	日の出
		主要品種③							
		主要品種④							
		予定収量(KG)					30		
③ 〇〇有機の会 (茨城県〇〇市)	JGAP取得済	主要品種①	豊光	玉輝	早若夏	新若夏	お		
		主要品種②							
		主要品種③							
		主要品種④							
		予定収量(KG)	100,000kg	120,000kg	130,000kg	45,000kg	65		

	生産者名	産地名	期首	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1	埼玉(上里)											期首予定			6月申請に変更
2	茨城						期首予定								2020年度中に申請予定
3	北海道														2020年度中に申請予定
4	愛知									期首予定		申請済(県)			審査結果待ち
5	愛知県(豊橋市)									期首予定					申請保留
6	静岡(菊川)						県GAP取得完了								
7	山梨(北斗市)														申請予定(県)
8	群馬(邑楽郡)	新規										申請済(J)			取得(A)
9	群馬(邑楽郡)											断念			
10	茨城県つば市	新規					JGAP取得完了								

栽培計画提出時にGAP状況を確認

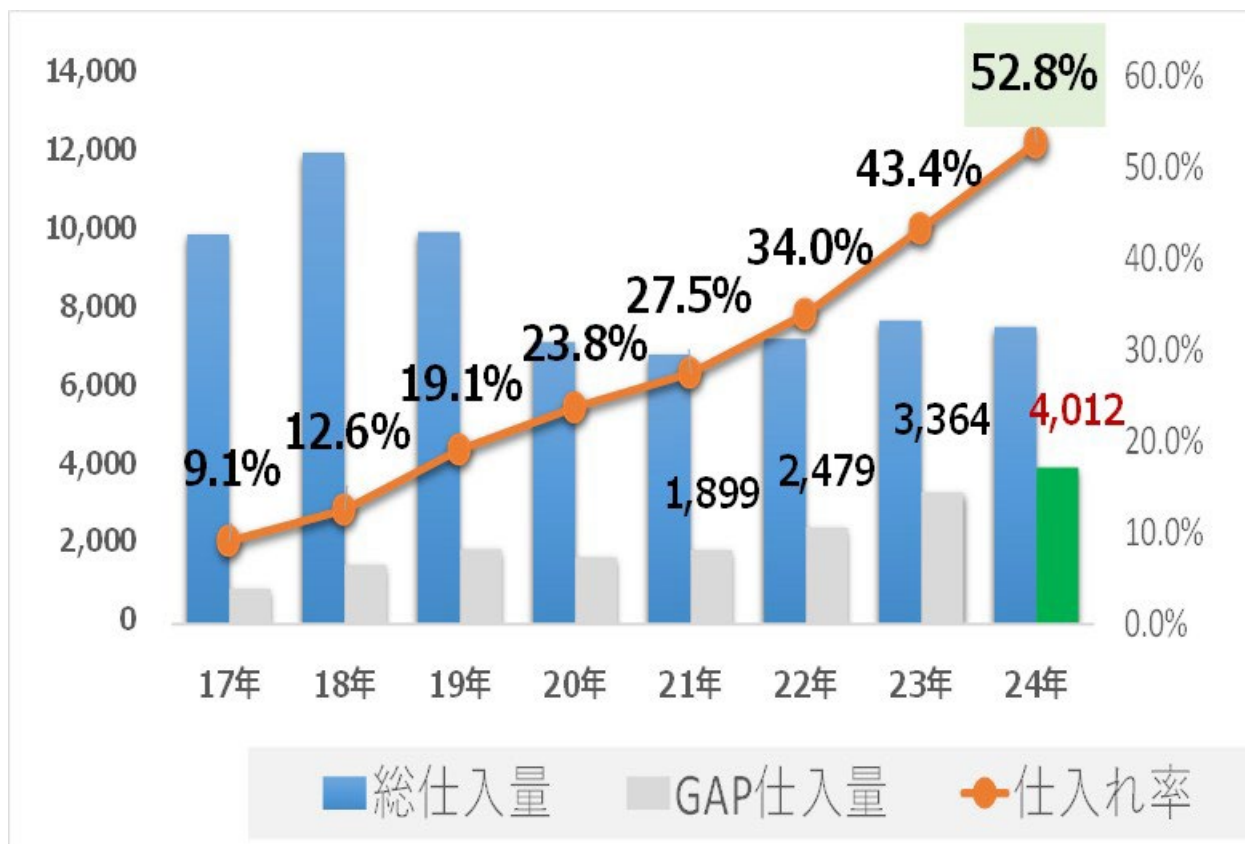
年度毎にGAP取得計画を作成(指導員がフォロー)

キャベツGAP認証取得産地の取り組み

GAP認証取得産地の達成状況



(単位:ト)



- ・2024年度は新規7産地の認証取得予定 (70産地中35産地取得)
- ・GAP認証産地からのキャベツ仕入れ量 4,012トンとなり、に**50.0%**を超える見込み

今後の目標

今後のGAP認証取得の取り組み

キャベツのGAP取得産地からの仕入れ率



仕入れ量(トン) 10,000



引き続き、未取得の産地に対してGAP指導員の資格を持つスタッフが、GAP取得推進の活動を行っていきます。

今後のGAP認証取得の取り組み

他野菜のGAP取得産地の取り組み

■2023年実績

	相仕入れ (トン)	GAP仕入れ (トン)	GAP仕入れ 率 (%)	23年 取得産地数	24年 取得計画	25年 取得計画
人参	487	168	34.5 %	7 産地	1 産地	2 産地
玉ネギ	1,313	34	2.6 %	1 産地	2 産地	1 産地
小ネギ	29	10	35.2 %	1 産地	1 産地	2 産地
長ネギ	98	16	16.3 %	1 産地	0 産地	2 産地

■2024年進捗

新規契約により2024年度で4産地のGAP産地増の見込み。2025年度計画として更に7産地の取得計画

今後も新規産地開拓と合わせ、既存産地へのGAP認証取得の活動を行い、仕入れ率向上に繋げていきます。



営農連携の基本方針

①日本の農業の再生

就農活性と事業継承を応援

②自給率の向上

国産食材の使用で

自給率向上へ貢献

③安全・安心の提供

品質の高い美味しい商品を
沢山のお客様にお届けする。



ご静聴
ありがとうございました。